

兵庫県
保険医協会

西宮 支部ニュース 芦屋

No. 378
2025・11・25

発行

兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部
〒662-0832
兵庫県西宮市甲風園1丁目1-5 法貴ビル2F
法貴皮膚科内 兵庫県保険医協会
078(393)1801

第45回支部総会・記念講演会 (感想文)

災害時にも安心できるトイレ環境づくり～トイレで困る人を減らすために～

「トイレパニック」対策 医療者から声を上げて

西宮・芦屋支部は10月18日(土)、西宮市プレラホールにて第45回となる支部総会を開催。記念講演として、日本トイレ研究所代表理事の加藤篤先生を講師に市民公開講演会「災害時にも安心できるトイレ環境づくり～トイレで困る人を減らすために～」を開催。会員・市民ら50人が参加した。司会を務めた西宮市・半田医院の半田伸夫先生の感想を紹介する。



加藤篤さんが震災時の「トイレパニック」について解説

小雨交じりの10月18日土曜日、標記市民公開講演会に参加した。講師は日本トイレ研究所 代表理事である、加藤篤氏である。加藤氏は1972年愛知県のお生まれで、1996年芝浦工業大学を卒業され、都市建築などに興味を持っておられた。そのなかで建物の中で、必要不可欠の最小単位であるトイレに興味を持ち、トイレと、排泄に関することを専門にしようと考え日本トイレ研究所を立ち上げ、今日に至っている。

もちろん、マンホールトイレの普及や、災害用トイレの開発、トイレ車の開発など個別には進んではいる。しかし仕様や安全性などの核となる部分の情報共有ができていない。市町村や企業などの動きがバラバラで、震災のたびにドタバタが繰り返されている。

私は、災害時人々が最も困っていることが、水とトイレであり、災害時のトイレ問題に取り組んでいる方々を調べる中で、加藤さんのことを知った。阪神・淡路大震災から30年経って、トイレ問題がどの程度進んでいるのかと、加藤さんの話を楽しみにしていた。結果はどうだろう。残念なことに、移動式簡易トイレが災害現場に届くまで、最低3日、へたをすれば1か月かかる。その現状は30年経ってもあまり進展が見られない。さらに避難所のトイレ汚染の問題は、昨年の能登半島地震でも同じことが繰

り返されていた。ではどうすればいいのか。加藤氏は、避難所や家庭で簡易トイレ(既設の便座に袋を入れて、凝固剤で固めるタイプ)を一日4回、3日分を人数分備蓄することを推奨した。ヒトはだいたい3〜4時間でもよおすことが多く、かつ排泄物の上に排泄できない人が多い。一回ごとに処理するようにとのこと。これを一般常識として徹底することで、トイレ問題の初動はかなりの部分が解決する。実にいいことを聞いた。

加藤氏は医療者からトイレの問題提起をどしどししてほしい。医療者目線からのアドバイスが必要だと述べていた。移動トイレの安全性などについても一緒に考えていきたい。きわめて実践的のためになる講演会であった。

【西宮市・半田医院 半田伸夫】

〈参加した市民からの感想〉

・「もつと使用する人のニーズに合ったトイレを製作するべきだと思った」
・「多くの方々に聞いてもらいたいと思った。いろんな地区で企画して欲しい」
・「避難する事態でトイレはみんなが直面する課題だが、恥ずかしさもあり、大きな声では言いにくい問題だと思う。このようなお話を聞く機会を得ること、行政に動いてもらうことはとても大切だと思った」

西宮・芦屋支部 新年度役員一覧(敬称略)

(支部長) 法貴 憲

(副支部長)

伊賀 幹二、加藤 隆久
林田 英隆、半田 伸夫
広川 恵一、村上 博

(世話人)

多田 梢、上田 進久
坂尾 将幸、土山 雅人
林 功、宮崎 睦雄
藤森 隆史、岩下 敬正
川野 悦司、北垣 幸央
川崎 史寛、前田 信証
三浦 一樹、森 博雄
安岡 眞奈美、佐々木 健陽

(相談役)

北井 明、法西 浩

(評議員)

上田 進久、坂尾 将幸
土山 雅人、林 功
宮崎 睦雄

〔歯科〕 藤森 隆史、加藤 茂芳
(予備評議員)

岩下 敬正、川野 悦司
北垣 幸央、川崎 史寛
前田 信証、三浦 一樹
森 博雄、浦 克明(新)
〔歯科〕 小田 泰史

国際部／西宮・芦屋支部 市民公開講演会（感想文）

報告 ウクライナ被災市民の現在と私たちにできること

被害続くウクライナに関心失わないで

協会国際部と西宮・芦屋支部は9月20日、協会会議室にてポーランド在住のジャーナリストでルポライターの丸山美和さんを講師に市民講演会「報告 ウクライナ被災市民の現在と私たちにできること」を開催。会員・医師ら27人が参加した。司会を務めた半田伸夫先生の感想を掲載する。

さんである。毎年一時帰国されており、昨年も講演していた。戦争が長引き、ポーランドに避難したウクライナ被災市民の数も増えるに従い、両国市民の間には徐々に軋轢が生じてきている。ひどいときにはウクライナヘイト運動も起こっているという。学校でのウクライナ人差別、いじめ、言葉の壁など、多くの問題をかかえて、危険を承知で帰国する人も多い。



丸山美和さんがウクライナと避難民のリアルな状況を話した

丸山さんは、そんなウクライナの現状を見るべくキエフに向かったところ、滞在したホテルのすぐ近くでロシアのドローン攻撃を経験した。当初状況が理解できなかったが、分かったとたんに震えがとらなくなるほどの恐怖を覚えたという。ウクライナ政府も兵士の確保に困窮していて、路上を歩いている男性がTCKという機関に拉致され、簡単な訓練で前線に兵士として送り込まれ、遺骨となって帰ってくることも増えているという。ポーランド内部でも右派の大統領が選任され、ウクライナ政府と距離を置こうとする動きもある。ロシアの側の正当性を理解する人もいるが、丸山さんはすべてロシア

第18回被災地交流

物品／物産展

楽しみながらも震災について考える機会に

協会西宮・芦屋支部は11月8日（土）、広川内科クリニックで18回目となる被災地交流／物品・物産展を開催。恒例の気仙沼市の「かけあしの会」から新品種のぶどう「マスカ・サートイン」やりんご「シナノ・ゴールド」といった果物を中心に東北の物産品が販売されたほか、能登半島地震被災者の方々が使わなくなった漁網を編んで作ったサコッシュ、ロシア・ウクライナ戦争によりポーランドに避難しているウクライナ出身アーティストの作品などを販売した。また震災アスベスト曝露問題や被災地訪問などの協会の取り組みや、福島第一原発周辺での量線率測定記録、戦時下でのガザに住む女子学生と母親の日記、川口・蔵の

クルドの人々の暮らしなどのパネルを展示。地域住民・患者との交流を行った。また、「OTC類似薬」とされた医薬品の保険外しの問題や、病院・診療所の経営危機についても紹介。医療の抱えている問題を患者・市民の方々と共有できる貴重な機会となった。

参加した市民からは「震災当時は東北にボランティアで行っていたが、そのときだけになってしまった。こうした継続した取り組みがあることを知り、当時は振り返ることができた」「チラシを見て、ウクライナの方々のアクセサリが気になって初めて参加した」などの声が寄せられた。



賑わいを見せる「かけあしの会」東北物産の販売(上)／能登半島・ウクライナの作品展示・販売(中)／ガザのいまを伝えるパネル展示(下)

による情報操作によるものであり、注意してほしいと呼びかけた。

彼女はウクライナ人アーティストの作品を展示販売し、その全額をウクライナ被災市民援助活動に寄付している。私も美しい絵葉書を何点か買い求めた。

日本から遠く離れたウクライナの支援をするぐらいなら、能登の被災地支援にもっと資金援助すべきとの意見もある。そのことに異論はないが、日本も国際社会の一員であり、正しい情報を得る機会が極めて大事なことだ。そんな機会を摘み取ってはいけない。今回の講演は非常に貴重なものだと感じた。【西宮市・半田医院 半田伸夫】



ウクライナから隣国ポーランドなどに避難しているアーティストの絵画やアクセサリが展示された

世話人会だより

西宮・芦屋支部は10月24日（金）に西宮プレラ西宮練習室で世話人会を開催。4人が参加した。

【Ⅰ．最近の診療経験の交流】

・医薬品供給不足問題について
・保険証廃止・マイナ保険証について

【Ⅱ．予定・企画】

①健康と医療について語り合う会（10・30）

②被災地交流 物品／物産展（11・8）

③エーザイジャパン プレジデント、エーザイロゼバラミン担当者との面談（2回目）（11・27）

④市民講演会（日本クルド文化協会 ワックス・チョーラク氏）（12・6）

⑤保険請求事務講習会（12・14）

⑥支部忘年会（12・27）

⑦「日本の青空」映画上映会

【Ⅲ．協会・保団連行事】

①日常診療経験交流会（10・26）（半田先生・広川先生・法西先生発表）

②第106回評議員会（11・16）

③保団連医療研究フォーラム（11・23）

【Ⅳ．報告】

①市民講演会（丸山美和氏）（9・20）

②支部総会・記念講演（10・18）

③エーザイジャパン プレジデント、エーザイロゼバラミン担当者との面談（10・29）

*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。

次回は11月28日（金）に予定しております。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。